

# エージェンシー Agency

学校教育目標 「みんなの笑顔があふれる学校」

大津中学校通信 令和5年1月25日号

学校経営の4つのキーワード

①「信頼して、任せて、支える」

・常に「認め、ほめ、励まし、伸ばす」

## 先輩教師に学ぶ



1月19日と24日、大津町教育委員会主催の若手教員の指導力向上研修が大津中学校で開催されました。町内の初任5年以下の先生たちが「先輩教師に学ぶ」研修会ですが、本校の志水先生（保体）と中野先生（学活）が師範授業を行いました。どちらも素晴らしい授業で、参観の先生方からは「明日からさっそく実践したい」という声が聞かれました。

中野先生



↑中野先生の授業の様子（2年3組での学級会活動）

クラスの友人関係が固定化しているという課題に対し、残り2ヶ月をみんなが楽しく過ごすための取組を考える授業でした。多くの人が自分の意見を述べながら、最終的に折り合いをつけ合意形成を図ることができていました。司会の安永さん（左）と福本さん（右）、お疲れ様でした！

## 学校評価項目 Q&A

Q 「一人ひとりのニーズに応じた適切な特別支援教育」とは、どのような教育ですか？

A 特別支援教育とは、障がいのある子どもはもちろんですが、それにとどまらず全ての子どもに対して行われる適切な指導や支援のことです。具体的には、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個々の持てる力を高め、生活や学習の困難さを改善・克服する教育のことです。

例えば、黒板に書かれた内容をノートに写すのが苦手で時間がかかるという生徒は少なくありません。そのような生徒には、とりあえずタブレットのカメラで黒板を撮影し、家庭でノートにまとめるように配慮すれば、授業中は先生の話に集中して聞くことができます。

また、誰もが見通しが持てないと不安になったり、急な予定変更には戸惑ったりするものですが、特にそうしたことが苦手な生徒もいます。そこで、朝の会で今日の予定を確認したり、授業の最初に学習活動の順番や内容を板書したり、予定変更はできるだけ早めに伝えたりすることも大切になってきます。

現在、学校では、①つまずきの状態的確な把握 ②複数での情報収集 ③全職員での共通理解・実践 を行っています。

なお、ご家庭でも「得意なことやできることから取り組む」「むやみな叱責はしない」「役割を決め、達成感を持たせる」など、子どもたちに自信を持たせ自尊心を高める支援をお願いいたします。

志水先生



↑志水先生の授業の様子（2年1・2組の体育の長距離走）

長距離走の授業と言えば、決められた距離を一生懸命走り、タイムを競うものだと思っていましたが、今は全く違っています。まず、自分で周りのペースを決めます。（例：1周300Mを90秒）次に、同じペースを選んだグループでストップウォッチを持って励まし合いながら走ります。最終的には、設定タイムどおりに走れたかが重要となります。楽しく走りながら、必要な走法や呼吸法を学ぶ。目からうろこの授業でした。